古賀村と活水女園についての検討

前田 志津子

Study of Koga-village and Kwassui residential child care facility

Maeda Shizuko

Abstract

According to “100 Years of Kwassui History” from 1898 to 1906 (Meiji 31 to 39) Kwassui- Jyoen（residential child care facility）existed in Koga village, Kasuya gun, Fukuoka Prefecture. This paper investigates the location of the facility in Koga village and the reasons for its relocation from Kumamoto to Koga**.**

Keywords: Koga-village, Kwassui- Jyoen(residential child care facility), Railroad

１．はじめに

本研究の背景は、2020 年 12 月 10 日、活水学院、朝のチャペルで筆者が話をしたことに端を発する。その時の話の内容については、活水学院宗教センターチャペルメイトクリスマス号に掲載されている。それに若干の加筆をし、以下に述べる。

朝の礼拝から「中村哲、人とのつながりと信頼」

ヨハネによる福音書　４章 13 節、14 節

「砂漠化した大地に用水路を引き農地に蘇らせる働きをされていた中村哲さんのことは、誰もが知るところだと思います。

さて、福岡市東区にある香住ヶ丘バプテスト教会に藤井健児牧師がいらっしゃいます。私は、藤井先生とは、幼き日教会学校の遠足で香椎花園に行ったときが最初の出会いでした。藤井先生は全盲です。「目は見えないけれども、心の目は見えるのです。」と、当時私におっしゃったことを今でも覚えています。その藤井先生が最初にバプテスマを授けた方が、当時中学 3 年生中村哲さんだったのです。

1 年前の 2019 年 12 月、哲さんは、同行されていた警備の方共々銃弾に倒れてしまう、という悲しい出来事が起きてしまいました。2020 年 12 月北九州市で「中村哲医師の功績を振り返るシンポジウム」が開催されました。北九州市は哲さんが幼少期を過ごされたところ。その後は、現在の古賀市に転居され、古賀西小学校に通った、と藤井先生から聞きました。当時は糟屋郡古賀町、かつては、福岡県糟屋郡古賀村、ここは、活水女園が 1898（明治 31）年熊本より移転した地。哲さんは古賀町の自宅から西南学院中学校へ通いました。

哲さんと香住ヶ丘バプテスト教会とのかかわりは、「セイナンです。」と挨拶されたチャリー・フェナー宣教師と藤井健児先生との出会いから、早速次の日曜日からチャリー・フェナー宣教師は、香住ヶ丘教会に来られるようになり、哲さんもチャリー・フェナー宣教師と一緒に来られるようになったということです。

哲さんは当時、大きくなったら「僕はもの書きになります。」と言っていた、話題が豊富で尽きない、文才がある、と藤井先生。火野葦平は哲さんの伯父さまにあたる人です。哲さんは西南学院中

学校から福岡高校へ進んでいます。高校の試験の日、「忘れていました。」というくらいボソッと、している少年だったそうです。私が覚えているのは、福高の文化祭でペシャワール会の募金箱が設置されていました。先輩の志を引き継ぎ、少しでも役に立てたいとの希いであったと思います。哲さんは、その後九州大学へ。

藤井先生は、哲さんについて、ことさら大きなことをやろうというような人ではない、派手でなく、コツコツとやっていく人。当時の社会問題にも関心があり動いていた。感性豊かな少年、藤井先生は哲さんと話をしている時クラシックの音楽をよく流していたそうです、現地アフガニスタンの家は石造りであるので、音楽の響きがよく、この時に耳にした音楽をよく聴かれていたようです。また、語学も得意で現地の言葉で信頼関係をつくることを大事にしていた人でありました。

そして、藤井先生は、1 年前の 2019 年 12 月 3 日の夜中、哲さんの講演のテープを聴いていると、隣に哲君がいるようで、「頑張れよ。」と言葉をかけたそうです。その 10 時間後思いもよらない第 1 報が入ったということでした。」

なお、冒頭の聖書の個所「ヨハネによる福音書４章 13 節、14 節」は、中村哲さんが引いた水路、命の水、そして「活ける水」は活水の校名に由来するところ、いつまでも渇くことのない豊かな水がその人の内で泉となり永遠の命に湧き出るようにとの希いが込められている。

つまり、本研究の背景は筆者が中村哲さんの話をする機会から、哲さんが青年期を過ごした場所が、現古賀市であったこと、時代は異なるが同地域に 1898（明治 31）年から 1906（明治 39）年、当時福岡県糟屋郡古賀村に児童養護施設としての活水女園が存在していたこと、そのことから、活水女園は、現古賀市のどの位置に在ったのか、当時の古賀村の状況について紐解いてみたいと考えたことによる。

２．研究の目的

活水女園が 1898（明治 31）年から 1906（明治 39）年存在していた場所について明らかにすること。そして、活水女園が存在していた古賀村の当時の状況について明かにすること。以上が研究の目的である。

３．研究の経過

研究経過については、以下のとおり聴き取り調査を行った。

訪問日	訪問先	分かったこと等
2020 年 12 月 28 日	古賀市役所 固定資産に関する資産税係	市役所の受付で、事情を話すと、活水女園という建物から固定資産に関する資産税係を案内され、係の方が対応してくださった。ここでも来庁の目的を伝えると、歴史的なことであるゆえ、文化課につないでいただいた。あいにく担当者は、席を外しておられたが、その日のうちに連絡をいただいた。
	古賀市教育委員会文化課 文化財係	文化課の担当者によれば、活水女園は、おそらく古賀駅の周辺、つまり駅から比較的近い場所にあったのではないだろうか、との助言をいただいた。よって、古賀駅を訪ねることにした。
2020 年 12 月 29 日	JR 古賀駅	当時の駅舎、周辺の地図等の情報が得られないかと考えたが、困難であった。分かったことは、古賀駅は、1890（明治 23）年 9 月 28 日開通から 2020 年に 130 年を迎えていること。130 年を迎えたのは、5 駅（箱

		崎・香椎・古賀・福間・赤間）であること。その 5 駅を統括しているのが JR 香椎駅ということであった。
2021 年 1 月 3 日	JR 香椎駅	古賀駅に関して統括している香椎駅を訪ねる。駅開通 130 年の記念のポスターやチラシ等探してはくださったが、駅長不在であったためか、特に情報は得られなかった。
2021 年 1 月 5 日	古賀市役所資産税係	前回 12 月 28 日の訪問に際しお礼を述べる、すると活水学院創始者の情報等検索してくださっていて興味をもたれたようである。そして、古賀駅直ぐ東側にあるニビシ醤油は 2020 年に 100 周年を迎えていること、比較的新しいものではあるが、工場周辺の写真を見せていただいた。そのことから、ニビシ醤油に行けばもっと以前の写真があるかも知れないという助言をいただき、この日、ニビシ醤油を訪ねることとした。
	古賀市立図書館 文化課文化財係	市役所から、文化課は、市役所の建物の別館にあり、つまり古賀市教育委員会文化課文化財係を訪ねる。1 階は図書館になっているため、図書館に立ち寄る。文化課文化財係長は図書館へ来てくださり、ここでご挨拶し、図書館司書の方の協力も得て古賀市の歴史に関する文献探索を行った。
	ニビシ醤油総務部総務課	ニビシ醤油総務部を訪ねる。100 周年のポスターが掲示されている。 市役所で紹介された写真について尋ねると、1955（昭和 30）年に撮影されたもののデータをいただいた。この写真は市役所で見せていただいたものと同じで、それ以前のものはないということである。しかし、駅の直ぐ近くの許山酒店、ここは昔からの地域のことをよく知っていると思われるとのことからそこに行けば何か情報が得られるのではないか、と案内してくださった。
	元古賀町町長宅	隣接する元古賀町町長宅に行けば、史料はあるのではないかと、つないでいただいた。元町長のご家族の方が対応してくださり、書籍『粕屋要録』をいただき、また古賀村は松林が広がる地域であるので、昭和初期ではあるが、松林が写っている写真等いただいたりした。もしかするとその松林のなかに「活水女園」は存在していたかも知れないというような話も伺った。 さらにまた、古賀駅周辺の広大な土地の所有が「岡部」であるので、「岡部鉄工所」に行けば、「活水女園」があった場所は分かるかも知れない、というような情報もいただいた。

2021 年 1 月 22 日	古賀市立古賀東小学校	古賀東小学校は、校長先生の話では、昨年 130 周年を迎えた、ということである。そうであれば、古賀駅が開通した時と同じである。また、1989（平成元）年 11 月発行の古賀東小学校百周年記念誌には 1890（明治 23）年からの卒業生名簿が掲載されている。 「活水女園」の子どもたちが古賀村で過ごした年齢は分からないが、学童期であれば、そして小学校へ通ったとすれば、古賀東小学校しか考えられない。 活水女園で養育された女児で活水女学校に入学し、宣教師宅に住み、働きつつ学び卒業して社会に出、との記述が活水学院百年史にあるので、その後の調査で、古賀東小学校 1903（明治 36）年卒業、そして 1910（明治 43）年、活水女学校初等科卒業生と一致する名前が掲載されていた。よって同一人物と考えられる。ここでは名前は割愛する。図２は、1903（明治 36）年の卒業ではなく 1904（明治 37）年の卒業写真である。古賀村の特徴としての松林が背景となっている。

図１　古賀東小学校当時の校舎玄関前

図２　1904（明治 37）年卒業生

出典：古賀東小学校創立百周年記念誌『幾千代かけて』

2021 年 1 月 25 日	岡部鉄工所	先の調査において、古賀駅周辺の広大な土地の所有が岡部鉄工所である。という情報と、「活水女園」のために古賀村にある約 10,000 坪の土地、を提供したのが、活水の卒業生大村マスオ、後の衣笠マスオということが、『活水同窓会の歩み』に掲載されている。衣笠夫人は、「岡部」のつながりある方かも知れない、と考えたので、岡部鉄工所を訪ねる予定で連絡した。「岡部」は、元々福岡市東区にあったので、古賀でのことは、分からない。そして、衣笠姓、大村姓は、岡部関係者にはいない。ということであった。 後に確認できたことは、活水女園の跡にホータイ会社が出来、その跡に焼酎会社、そしてその跡に岡部鉄工所と書かれていたものがあり、活水女園が存在していた時代とは異なっていることが分かった。
2021 年 2 月 9 日	文化課文化財係	文化財係長から「地図が見つかりました。」との連絡をいただいていたので、この日、活水女園であろう、その地図が示されている史料をいただいた。地名「耶蘇教（古賀）」とある。図９を参照。加えて耶蘇教の孤児院。真にこれが活水女園であることが分かった。
2021 年 2 月 13 日	元古賀町町長宅	「古賀町の歴史 59.10.30 町文化財調査委員長崎初男」と題する史料をいただいた。歴史講座の資料である。ここにも今はなくなったものとして耶蘇教の孤児院明治三十年代終わり（地名ヤソキョウ）と書かれている。
2021 年 2 月 24 日	古賀市立図書館	長崎初男氏がこれまで調べてこられた史料が活水女園につながることが確信できる。よって長崎初男氏のプロフェールについて調べる。 文化課文化財係よりいただいた、「古賀の郷土史研究家たち」のリーフレットから以下に抜粋する。 長崎初男 1907（明治 40）年 4.24～ 2003（平成 15）年 7.23 「長崎初男さんは、筵内村（現在の古賀市）に生まれ、宗像中学を経て福岡師範学校に進みました。卒業後母校の席内小学校に訓導（現在の教諭）として奉職してから昭和 41 年 3 月古賀中学校の校長を最後に退職するまでの 40 年間、教育一筋の人生を歩みました。明治生まれの気骨のある教育者であると同時に熱心な郷土史研究家で、古賀の歴史については右に出る人はいないほど博覧強記の人でした。」と掲載されている。

表 1

４．研究の結果

４－１活水女園の起こり

まず、活水女園の起こりについて述べる。活水学院五十年史には、次のように述べられている。「明治二十六年（一八九三）島原灣海嘯の際熊本側の沿岸で多数の孤児が寄るべなき運命を嘆いて居ることを耳にした時女史はどうしても座視するに忍びなかった。直ちに進み出て十五名の無告女児を引き受けた、是が「活水女園」の起こりである。」

また、活水学院百年史では、「一八九三（明治二六）年島原地震の際、津波に襲われた熊本側の沿岸で多数の孤児が、路頭に迷っているのを聞いた女史は見すごしにすることができなかった。直ちに進み出て一五名の無縁の女児を引き受けた。収容施設は熊本に設けられた。これが活水女園の起こりである。」

４－２福岡県糟屋郡古賀村へ

女性史研究第 4 集では、「明治二十六年に島原地震があったとき、熊本県には大きな津波がおこり、沢山の子どもが親をなくした。ラッセルは孤児となった女児一五名をひきとって、大江町九品寺に孤児院を開いた。現在の白川教会に隣接した土地で白川女園と名づけられていた。ラッセルはその経営に力を注ぎ、大島サキらの協力もあったが、熊本市内での借家は家賃も高くて、活水の卒業生より土地の寄贈があったので、明治三一年に福岡市郊外古賀村に引っこした。」

活水学院百年史においても、活水女園の「収容施設と言っても借家で、家賃も高かった。女史はその経営に力を注ぎ、・・・程なく一八九七（明治三〇）年に本校卒業生衣笠マスオ夫人の好意によって、福岡市外古賀村に、一二エーカー（一五、〇〇〇坪）の広い土地が寄附されたので、施設が建築されることになった。」とある。

上述のラッセルとは、エリザベス・ラッセル 1879（明治 12）年 12 月 1 日、活水学院創始者である。

また、大島サキは、1883（明治 16）年活水学院神学科の第 1 回卒業生となった人で、「活水女園」の事業に協力している。

さらにまた、衣笠マスオ夫人とは、活水学院同窓会に登録されている名簿によると、衣笠マスオ旧姓大村 1892（明治 25）年活水女学校高等科卒業と、ある。そして、「活水同窓会のあゆみ」では、大村マスオ「1899（明治 32）年まで母校に勤めた後、衣笠姓となり、創始者ラッセル先生が、熊本で孤児院を設立されたことを知り、その財産の中から、福岡県粕屋郡古賀村にある約１万坪の土地を提供して恩師を応援した。」とある。

ここで、熊本での施設の家賃が高かったこととあるが、古賀村のある土地の提供があったことで、古賀村へ移転する理由が確認できる。

５．古賀村から古賀町、そして古賀市へ

５－１古賀村

平凡社地方資料センター発行の福岡県の地名を調べると、古賀村は、現古賀市古賀・天神 1－7 丁目日吉 1－2 丁目・駅東 1－3 丁目・庄 2 丁目・花鶴丘 1－3 丁目。犬鳴山（583.7 メートル）の北西、花鶴川河口に位置し、北から東は久保村、東は庄村、南は鹿部村、西は玄界灘。とある。

古賀村の変遷と沿革について粕屋要録を参考に、図３に示す。

古賀村の変遷と沿革

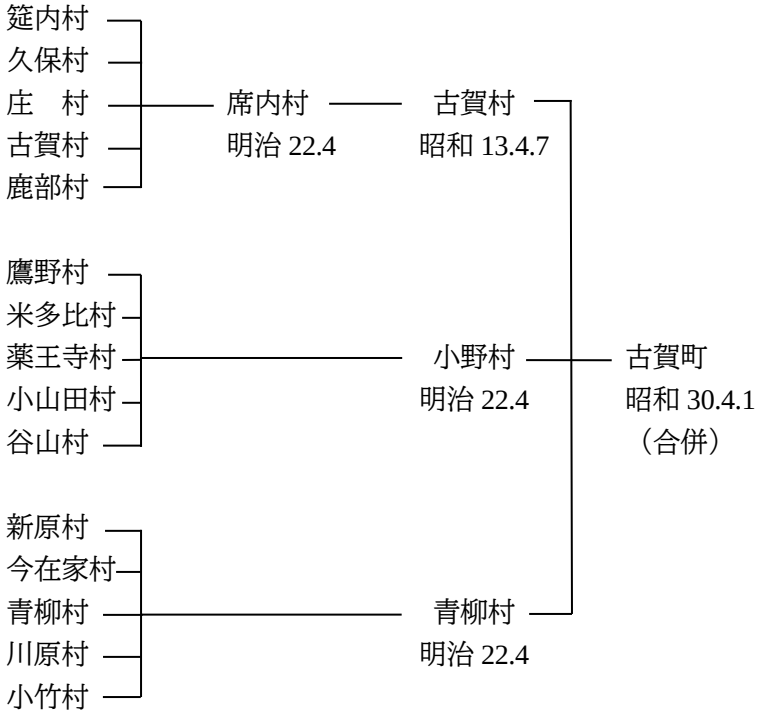


図３　古賀町の変遷と沿革　出典：史跡保存同好会『粕屋要録』

1889（明治 22）年、市町村制施行、粕屋郡 19 町村となる。

図３のとおり、古賀村は、1889（明治 22）年以前に存在し、その後、5 村が古賀村となり、そして、全ての村が古賀町となっている。

５－２古賀町

古賀町、現古賀市の位置については、古賀町誌によると、福岡県の西北部に位置し、東南の犬鳴山地を境に南に立花山、西は玄界灘を臨み、白砂青松の玄界灘に注ぐ町として在る。地理的特徴としては、山と平野と海という、自然のバランスのとれた、恵まれた地理的位置ということである。西山を中心とした 500－400 メートルの犬鳴山地は植林はもちろんのこと､動植物に非常に恵まれた山地である。また、犬鳴山地から玄界灘にむかって 100－300 メートルの北部・中部・南部の丘陵は町の自然に変化を与えるとともに、花崗岩の地質ということもあいまって酪農・果樹・蔬菜の先進地帯として役割を果たしてきた。地域に広がる花鶴平野は水田耕作の宝庫であり、さらに玄界灘に面した海岸地帯は古賀町のシンボルである砂丘と松原という、実に山・平野・海という、他の町村ではみられない自然に恵まれた古賀町の地理的位置といえる。

なお、古賀町は、福岡市の中心まで、15 キロメートル、北九州市の中心まで 40 キロメートルにある。図４に古賀町の位置を示す。

古賀町の地理的位置については、前述のとおりである。また、鹿児島本線古賀駅は、1890（明治 23）年 9 月 28 日、箱崎駅・香椎駅・古賀駅・福間駅・赤間駅とともに開通し、2020 年 130 年の記念の時を迎えている。

図５は、古賀駅を中心とした、交通の状況である。

図６は、1955（昭和 30）年撮影の古賀駅東側の状況である。

1890（明治 23）年開通した古賀駅の線路近くの引き込み線のそばに「活水女園」の建物を取り壊した資材等の荷物を置き、ここから 22 輌の貨車に積み込んで、大村へ移動したと考えられる。

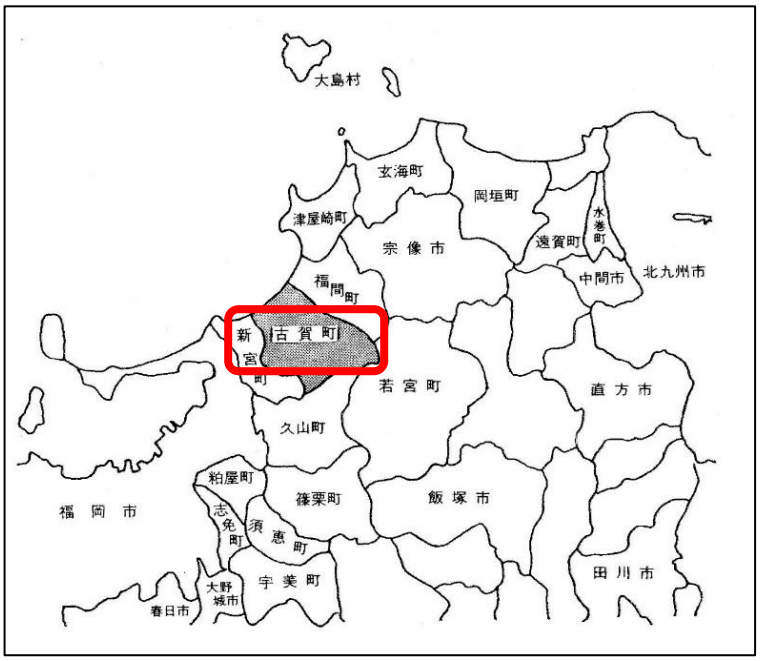


図４ 古賀町の位置　出典：古賀町誌編纂委員会『古賀町誌』1985（昭和 60）年

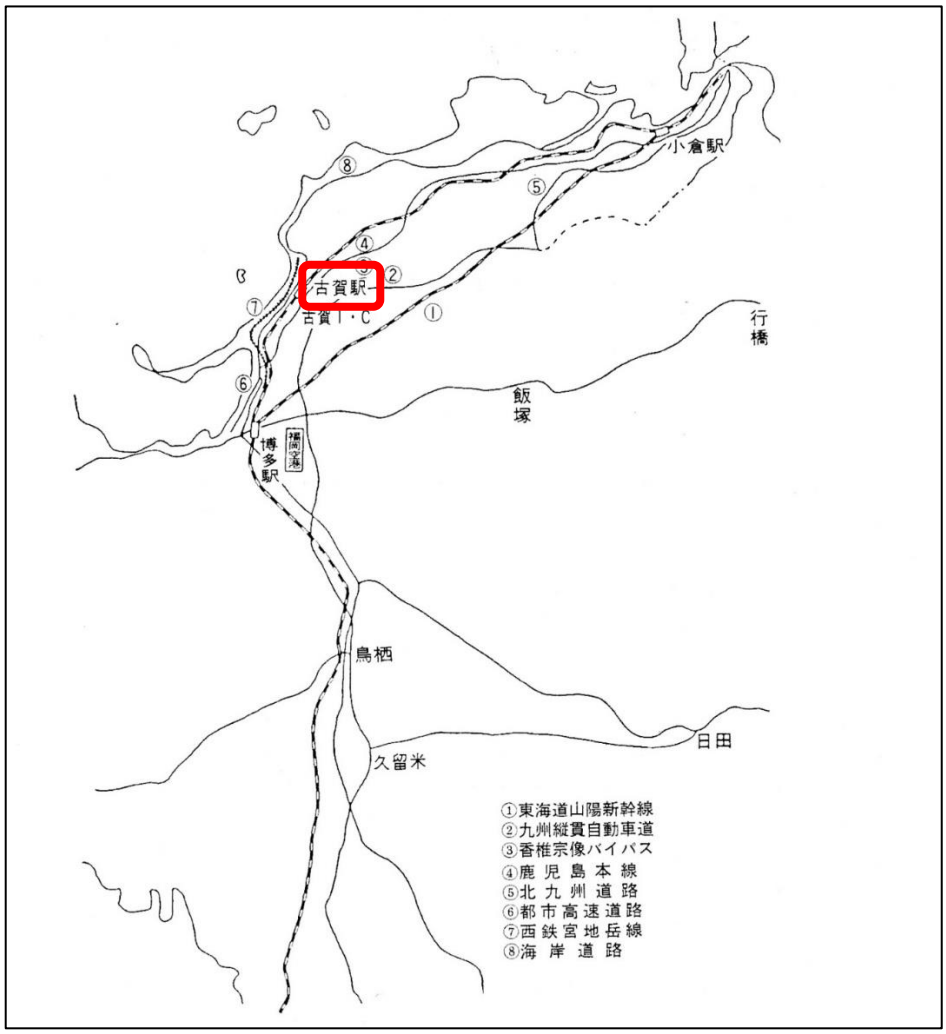


図５　交通の状況　出典：古賀町誌

図６　古賀駅東側周辺　　写真提供：ニビシ醤油株式会社

６．古賀村での活水女園について

『活水学院百年史』略年表では、古賀村での活水女園は、1898（明治 31）年 5 月から 1906（明治 39）年 3 月まで存在していたことが確認できる。

また、『活水女園』は、「ラッセル女史が熊本に起こした孤児救済の事業は、福岡市郊外古賀に土地が与えられ、施設を作って経営を続けていたが、1906（明治 39）年長崎県大村玖島郷に移ることになった。そこに 700 余坪の土地を得て、古賀の建物を取りこわして二二輌の貨車で運んで、再建した。」とある。

22 輌の貨車を利用していることから、古賀村での活水女園の場所は古賀駅からそう遠くはない場所と考えられる。因みに古賀駅は 1890（明治 23）年開通。

７．　活水女園の場所

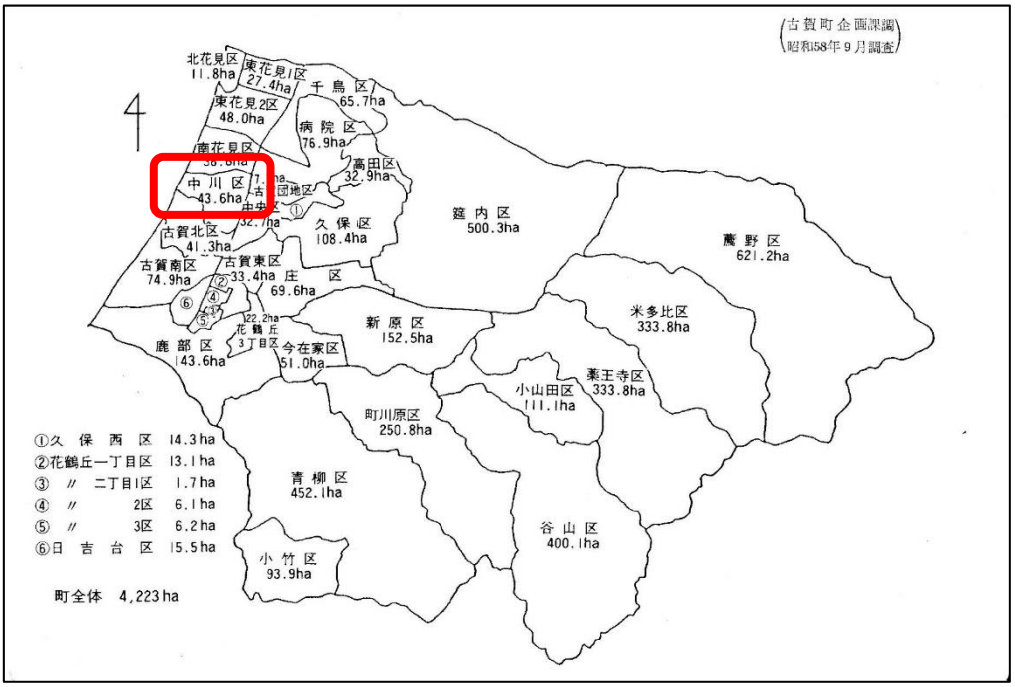


図７　古賀町行政区　出典：古賀町誌

前ページの行政区、図７にある中川区に「活水女園」があったと筆者は聞いていた。

図８は、1900（明治 33）年測図、翌年 1901（明治 34）年製版の地図をもとに活水女園が存在していたと考えられる場所を示す。

８．活水女園は耶蘇教孤児院

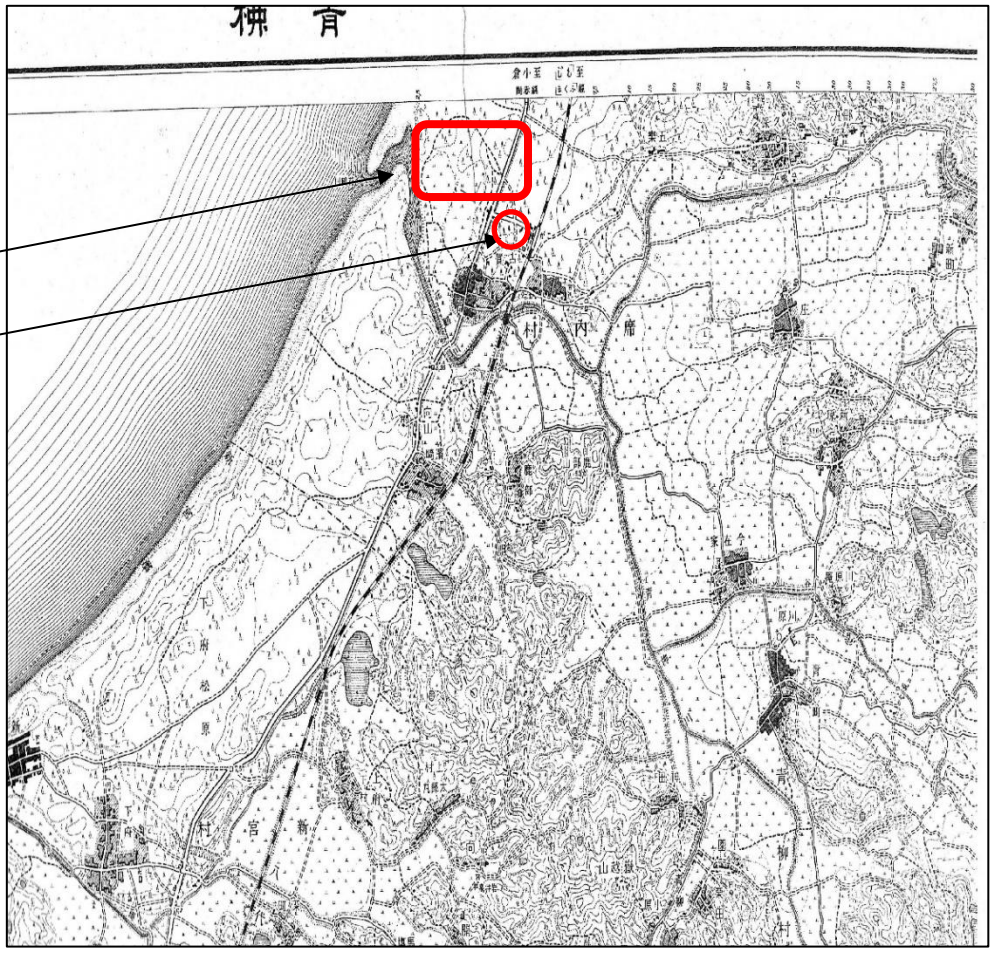


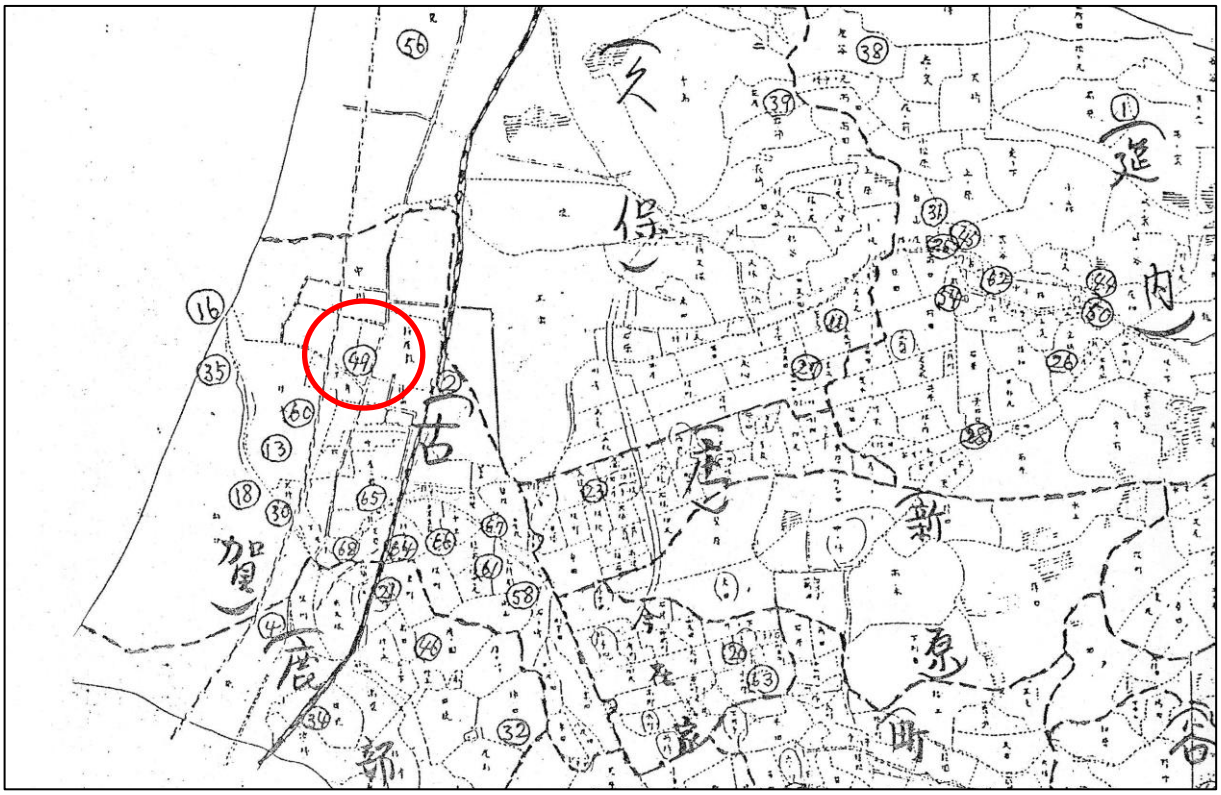
図８　古賀駅周囲の状況　　大日本帝国陸地測量部 1900（明治 33）年測図、翌年 1901（明治 34）年製版、図名「青柳」をもとに作成

活水女園の場所は、中川という地名、古賀駅から近いところを手がかりに研究を進めていく、そのなかで図９に示す地図があることが分かった。この史料は、長崎初男氏が記録されていたもので、1 から 70 まである地名のなかに、㊾をみると、耶蘇教（古賀）とある。これが、活水女園であると考えられる。

さらに、長崎初男氏の記録には、「中川の西牟田外科の旧国道の向い、キリスト教の孤児院が明治三十年代にあった。長崎へ移ったが、大正年間に、そのあとにホータイ会社が来てしばらくつづいた。」さらに続けて「ヤソキョウの地名を知っている人も少なくなった。」と記録されている。

また、「古賀町の歴史 59.10.30　町文化財調査委員　長崎初男」と題した史料から、今はなくなった主なものとして、1. 耶蘇教の孤児院、明治三十年代終わり。（地名ヤソキョウ）
ホータイ会社（ガーゼ）、大正年間その跡に。
2. 焼酎会社（キンビシポートワイン）大正から昭和の初めまで。
岡部鉄工所はその後に。

以上の情報から活水女園は、耶蘇教の孤児院として当時古賀村に存在していたことが確認できる。



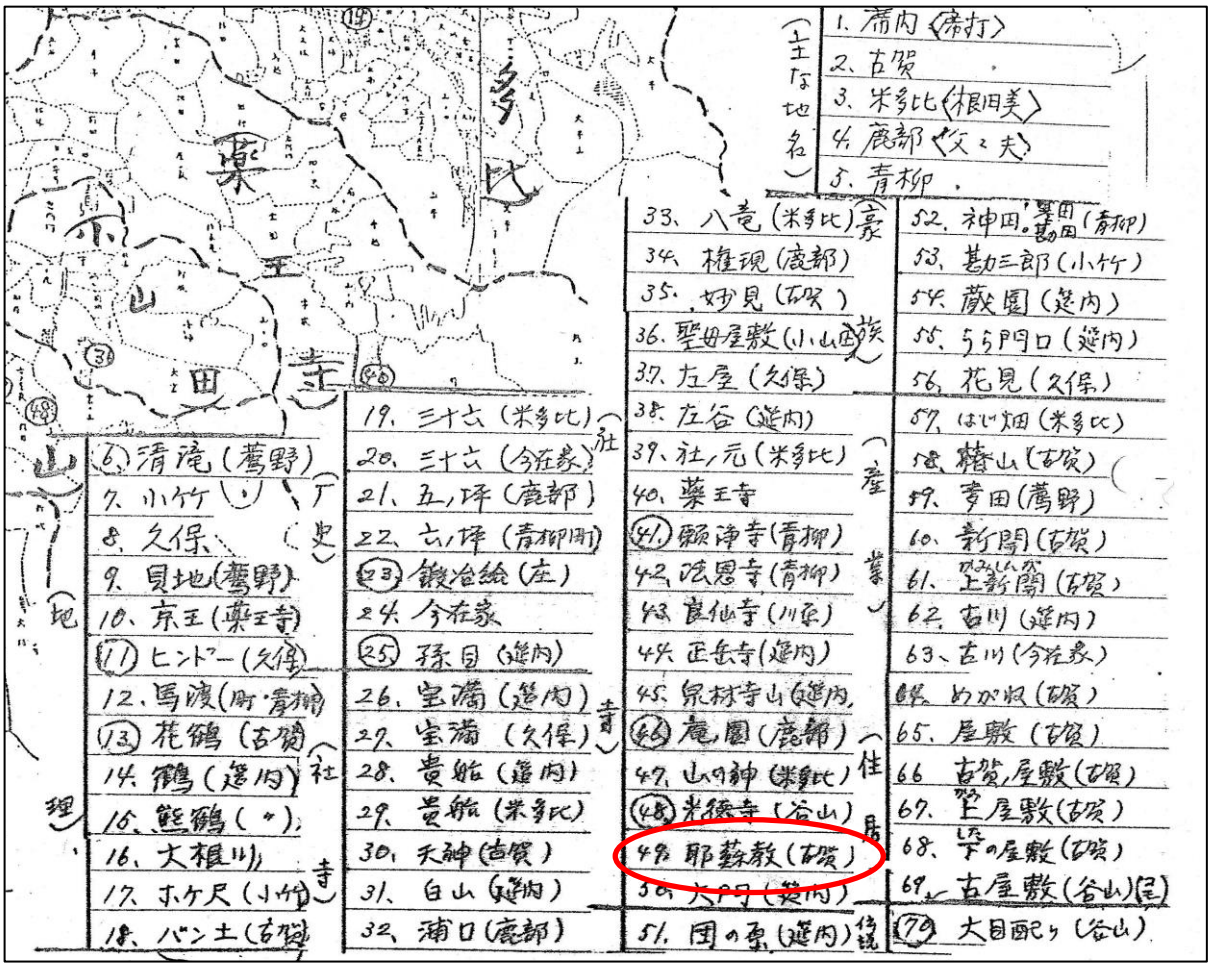


図９　活水女園、すなわち耶蘇教孤児院の場所
出典：長崎初男氏の記録　資料提供古賀市教育委員会文化課

前ページの地図により、活水女園、すなわち耶蘇教孤児院と記されている場所が確認できる。

下記の図 10 において、活水女園は古賀駅からおおよそ 500 メートルの位置であり、古賀の建物を取りこわして、22 輌の貨車で大村に運んだことが可能となる。

なお現在の住所は、古賀市天神３丁目・４丁目である。かつての 10,000 坪・15,000 坪の広大な敷地からそう判断する。図 10 は、活水女園が存在していた場所、古賀駅、そして当時女児が通ったと考えられる古賀東小学校の位置を示す。

活水女園

古賀東小

古賀駅

図 10　現在の古賀駅と活水女園の場所

Yahoo japan において提供されている地図をもとに作成

９．今後の課題

活水女園は、熊本から古賀、そして大村へと移転している。しかし、大村への移転の理由については、今回分からなかった。今後は、活水女園の移動していた軌跡をたどり、つないでいく。

１０．おわりに

本論文推敲にあたって、中村哲さんの少年期を語ることから、時代は異なるが、同地域に存在していた活水女園についての研究課題をもち、現時点での可能な限り述べている。

中村哲さんは、医師としての働きを超え、中村哲という人格を以て人間としての在り方が源泉にある。エリザベス・ラッセルもまた、教育者としての働きを超え、目の前に助けを必要としている人がいれば手をさしのべるのが人間である。そのことが伝わってくるのである。

謝辞

1898（明治 31）年～1906（明治 39）年の古賀村に存在していた活水女園の状況を述べるには活水女園という施設の名称も当時の記録も残されてないため困難である。しかしながら、古賀市教育委員会文化課文化財係長、井英明氏による長崎初男氏の記録の提供がなければ活水女園の場所にはたどり着くことができなかった、また、ここに至るまでには、様々な方の協力を得ている。古賀市役所の資産税課、古賀市立図書館、ニビシ醤油古賀工場、元古賀町長さまのご家族さま、活水学院同窓会事務局、活水女子大学総合企画室、以上の方々より貴重な情報、史料をいただいた。ここに附して感謝申しあげる。なお、論文推敲に際しご助言をいただいた筑紫女学園大学の山本尚史氏、福岡女学院大学の井上美香子氏に感謝申しあげる。

参考・引用文献

1）活水学院五十年史編集委員会『活水学院五十年史』活水学院 1925
2）活水学院百年史編集委員会『活水学院百年史』活水学院 1975
3）史跡保存同好会『粕屋要録』史跡保存同好会 1968
4）家族史研究会『女性史研究』特集近代の女キリスト者　家族史研究会第 14 集　共同体社 1982
5）福岡県町村会『創立六十周年記念 福岡縣町村會史』福岡県町村会 1982
6）古賀町誌編纂委員会『古賀町誌』古賀町 1985
7) 活水同窓会『活水同窓会の歩み』1987
8) 古賀東小学校創立百周年記念事業実行委員会『幾千代かけて』1990
9）石瀧豊美監修『宗像・福津・古賀の今昔』郷土出版社 2010
10) 平凡社地方資料センター『福岡県の地名』平凡社 2004
11) 二瓶淨幸『大島サキと活水における最初のリバイバル』活水論文集第 58 集 2015
12) 活水同窓会『～歴史の交響～活水学院と長崎プロテスタント教会の百二十年』2015